牛 肉 情 勢

11月13日 更新　JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容
供給	1.国産	○ 9月の成牛と畜頭数は、89.8千頭と前年並み(前年比100.4%)となった。 内訳を見ると、和牛:40.3千頭(前年比101.8%)、交雑牛:21.4千頭(同103.7%)、乳牛去勢:10.7千頭(同94.5%)となった。 ○ 10月の成牛と畜頭数は、速報値(10月31日まで集計)で93.6千頭と前年を上回る(前年比102.0%)見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(10月26日公表)によると、10月の出荷頭数は、全品種で増加が見込まれることから、前年を上回ると予測し、 11月は、全品種での出荷頭数の減少が見込まれることから前年同月を下回ると予測する。 (10月95.5千頭(前年比103.6%)、11月108.7千頭(同97.5%))。 そのため、3か月平均(9月～11月)では、出荷頭数98.1千頭(前年比100.1%)、生産量31.0千ﾄﾝ(同100.4%)と前年並みの予測となっている。
	2.輸入	○ 9月の輸入通関実績は、全体で37.0千ﾄﾝと前年を下回った(前年比71.3%、前月比81.1%)。 内訳ではチルド:15.3千トン(前年比90.2%、前月比88.5%)、フローズン:21.7千ﾄﾝ(前年比62.1%、前月比76.6%)となった。 輸入相手国別では、チルドはニュージーランド、豪州が増加し、フローズンは全体的に減少した。 (参考:形態別相手国別輸入数量) チルド　　:豪州7.5千ﾄﾝ(前年比120.7%)、米国6.6千ﾄﾝ(同73.2%)、ニュージーランド0.6千ﾄﾝ(同133.3%)、カナダ0.4千ﾄﾝ(同61.0%)、メキシコ0.1千ﾄﾝ(同27.6%) フローズン :豪州9.5千ﾄﾝ(前年比67.6%)、米国5.7千ﾄﾝ(同52.1%)、カナダ2.6千ﾄﾝ(同55.0%)、ニュージーランド1.9千ﾄﾝ(同77.5%)、メキシコ1.4千ﾄﾝ(同97.3%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドの輸入量は、10月が豪州の現地生産量の増加により輸入量が増加するため前年同月を上回り、11月が需要の低迷に加え豪州以外の輸入量が少ないことから下回ると見込んでいる。フローズンは、国内の輸入品在庫量が多い事や主要国を含む全ての国からの輸入量が少ない事から、10・11月ともに前年を下回ると見込んでいる。3か月平均でも、チルド、フローズンともに下回ると見込んでいる。 令和5年10月　合計:35.4千ﾄﾝ(前年比72.8%)、チルド:15.3千ﾄﾝ(同105.3%)、フローズン:20.1千ﾄﾝ(同59.0%) 令和5年11月　合計:35.5千ﾄﾝ(前年比90.1%)、チルド:15.2千ﾄﾝ(同86.3%)、フローズン:20.3千ﾄﾝ(同93.2%) 直近3か月(9月～11月)平均 合計:35.9千ﾄﾝ(前年比77.0%)、チルド:15.0千ﾄﾝ(同91.8%)、フローズン:20.9千ﾄﾝ(同69.0%)
需要	1.家計消費 2.小売動向 9月概況	○ 総務省発表の9月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり牛肉購入量は465g(前年比87.4%)、支出金額が1,536円(同89.2%)となり、 購入量、支出金額ともに前年を下回った。(※2019年度同月比:購入量 96.1%、金額 98.5%) ○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の9月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,110.4億円(前年比100.7%、既存店ベース100.9%)と前年並み。 精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉は豚肉・鶏肉へ需要がシフトする傾向が続き、やや不調傾向となった。牛肉はハレの日や週末は好調だが、その他の時期は苦戦した店舗が多い。 豚肉は、国産が高騰しており、輸入豚を中心に小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に好調。鶏肉は手頃なむね肉が好調。加工肉は値上げの影響で不振が続いている。
	3.外食 9月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した9月販売概況によると、畜産品の売上は863.4億円(店舗調整後で前年比100.9%)となり、前年並みとなった。 鶏肉の動きは良かったが、牛肉、豚肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きも良かった。 ○ 日本フードサービス協会がまとめた外食産業市場調査9月度結果報告によると、秋の季節メニュー商戦が活発で売上好調。月後半や土日祝日を中心に客足好調で、全体売上は前年比115.0%、 2019年比では109.5%となった。インバウンド需要は引き続き堅調で、都心部・観光地ともに外食機会が増加。店舗当たりの売上は、価格改定や直近の人流増で引き続き回復傾向にある。 業態別; ①ファーストフード　前年比112.6%、2019年度比122.9%　秋の季節メニューが好評で、長引く残暑で冷たいメニューやビール販売も堅調。残暑でアイスクリームの売れ行きも衰えず ②ファミリーレストラン　前年比117.3%、2019年度比 98.4%　価格訴求型キャンペーンが好評。焼肉店は価格改定の影響か、平日の客足が鈍った店舗もあったが、食べ放題の店舗では売上が堅調 ③ディナーレストラン　前年比119.3%、2019年度比 95.0%　処理水問題で客足が懸念されたインバウンド需要が概ね堅調に推移している ④居酒屋　前年比127.4%、2019年度比 65.2%　長引く残暑でビール販売が好調だった。店舗数はコロナ前の7割近くにとどまっているが、店舗当たりの売上は回復基調にある
	4.輸出	○ 9月の輸出実績は802.2ﾄﾝ(前年比114.4%)と前年を上回った。台湾向け(180.4ﾄﾝ、前年比165.0%)、香港向け(162.5ﾄﾝ、前年比135.8%)はともに前年を上回った。 また、カンボジア向け(116.6ﾄﾝ、前年比75.1%)は前月に引き続き前年を下回っており不安定な状況となっている。
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、9月末の推定期末在庫量は156.3千ﾄﾝ(前年比94.3%、前月比97.4%)と前年を下回る。 内訳は、輸入品;143.4千ﾄﾝ(前年比94.2%、前月比96.9%)、国産品;12.9千ﾄﾝ(同94.6%、同104.9%)となり、ともに前年実績を下回った。 なお、今後の期末在庫の推移は、10月末;148.3千ﾄﾝ(同89.9%)、11月末;142.9千ﾄﾝ(同87.8%)と、10月、11月ともに前年を下回ると見込まれている。
枝肉相場	1.R5年10月 速報値	○ 10月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;10月31日時点)は、和牛去勢A5が2,545円(前年比96.1%)、A4が2,078円(同88.8%)、交雑去勢B3が1,445円(同95.0%)、 乳牛去勢B2が839円(同80.6%)であった。 ○ 10月は、消費者の生活防衛意識が依然として高いことに加え、例年より暖かい日が続いたことで鍋物需要等が振るわず需要は低迷した。 一方で、和牛は各地で共励会等が開催されたことで、前年は下回ったものの前月は上回る相場展開となった。
	2.R5年11月 予測	○ 11月は、気温の低下が進むにつれ鍋物需要等が増加する期待感はあるものの、消費者の消費マインドは盛り上がらず月中盤までは弱踏みで推移するものと思われる。 また、月後半からは年末向けの手当が増加するため需給が引き締まり相場は強含みで推移するものと想定され、月平均では前年を下回るが前月は上回る水準となると見込まれる。 一方で、乳牛去勢は牛肉輸入量の減少や輸入牛肉価格の高値推移から代替需要があるものの限定的であることから、横ばいで推移すると見込まれる。 ◎ 枝肉相場予想:東京市場【税込」　9月実績　10月速報値　11月予測　12月予測 ・和牛去勢 「A-5」: 2,493円 (97.4%)　2,545円 (96.1%)　2,550円 (96.2%)　2,600円 (96.7%) ・和牛去勢 「A-4」: 2,065円 (90.5%)　2,078円 (88.8%)　2,150円 (90.4%)　2,150円 (89.6%) ・交雑去勢 「B-3」: 1,454円 (97.3%)　1,445円 (95.0%)　1,500円 (99.6%)　1,500円 (94.7%) ・乳牛去勢 「B-2」: 746円 (77.5%)　839円 (80.6%)　850円 (76.2%)　850円 (82.6%)
部分肉相場	1.R5年 11月 予測	◎ 首都圏仲間価格【税抜】　【和牛:4等級】　【ホルス:2等級】　【交雑牛:3等級】 ・和牛カタセット(スネなし) : 3,000円　・ホルスカタセット(同) : 1,900円　・交雑牛カタセット(同) : 2,200円 ・和牛ロースセット(ヒレなし): 6,000円　・ホルスロースセット(同): 3,050円　・交雑牛ロースセット(同) : 4,300円 ・和牛モモセット(スネなし) : 3,700円　・ホルスモモセット(同) : 1,950円　・交雑牛モモセット(同) : 2,350円 ・和牛トモバラ : 1,800円　・ホルストモバラ : 1,050円　・交雑牛トモバラ : 1,150円

備　考

○国内生産量の推移(単位:千頭・%)

暦年	和牛計 頭数	和牛計 前年比	交雑牛計 頭数	交雑牛計 前年比	乳牛去勢計 頭数	乳牛去勢計 前年比	成牛計 頭数	成牛計 前年比
R1年	457.8	101.1	236.7	94.9	167.9	94.4	1,038.6	98.8
R2年	477.2	104.2	227.8	96.2	161.6	96.2	1,047.1	100.8
R3年	483.1	101.2	228.9	100.5	154.5	95.6	1,054.6	100.7
R4年	490.2	101.5	248.6	108.6	140.8	91.4	1,083.1	103.0
R5年　6月	40.6	102.9	21.2	107.4	11.2	92.4	88.4	101.6
R5年　7月	45.9	102.3	23.0	107.9	11.2	93.4	95.3	101.3
R5年　8月	37.7	103.5	20.2	103.0	11.2	93.9	85.4	100.1
R5年　9月	40.3	101.8	21.4	103.7	10.7	94.5	89.8	100.4

※成牛計は、乳牛雌やその他品種も含まれるため数字が一致しない

○輸入量の推移(単位:千ﾄﾝ, %)

暦年	輸入数量合計 数量	輸入数量合計 前年比	チルド数量 数量	チルド数量 前年比	フローズン数量 数量	フローズン数量 前年比
R1年	615	101.3	275	98.6	340	103.6
R2年	600	97.6	262	95.1	339	99.5
R3年	585	97.4	264	100.9	321	94.7
R4年	560	95.4	217	83.0	343	104.3
R5年　5月	46.4	101.4	16.1	78.5	30.3	120.0
R5年　6月	43.7	75.7	16.5	72.3	27.2	77.9
R5年　7月	38.7	74.4	19.4	99.2	19.3	59.5
R5年　8月	45.7	85.3	17.3	88.5	28.3	83.5
R5年　9月	37.0	71.3	15.3	90.2	21.7	62.1

＊財務省:
通関実績

○総務省:家計消費量(ｸﾞﾗﾑ, 円, %)

暦年	全国1世帯当り 数量	全国1世帯当り 前年比	全国1世帯当り 金額	全国1世帯当り 前年比
R1年	6,558	97.6	21,178	96.8
R2年	7,199	109.8	23,677	111.8
R3年	6,748	93.7	23,210	98.0
R4年	6,232	92.4	22,355	96.3
R5年　6月	479	103.0	1,587	96.6
R5年　7月	475	94.2	1,643	91.8
R5年　8月	516	101.6	1,800	91.9
R5年　9月	465	87.4	1,536	89.2

○輸出量の推移(単位:ﾄﾝ、%)

暦年	チルド数量	フローズン数量	合計	前年比
R1年	2,066	2,274	4,339	121.9
R2年	2,341	2,503	4,845	111.6
R3年	3,490	4,388	7,879	162.6
R4年	3,737	3,717	7,454	94.6
R5年　6月	345.7	275.3	621.0	122.0
R5年　7月	353.0	278.1	631.1	97.7
R5年　8月	313.3	325.7	639.0	97.1
R5年　9月	390.6	411.7	802.2	114.4

○市況の推移: 東京市場(税込み、単位:円/kg、%)

暦年	和牛去勢A-5 価格	和牛去勢A-5 前年比	和牛去勢A-4 価格	和牛去勢A-4 前年比	交雑牛去勢B-3 価格	交雑牛去勢B-3 前年比	乳牛去勢B-2 価格	乳牛去勢B-2 前年比
R1年	2,732	97.3	2,408	97.4	1,626	106.7	1,016	97.8
R2年	2,459	90.0	2,103	87.3	1,398	85.9	924	91.0
R3年	2,702	109.9	2,427	115.4	1,554	111.1	1,004	108.6
R4年	2,607	96.8	2,348	96.9	1,523	98.1	1,042	102.4
R5年6月	2,564	98.4	2,176	91.4	1,452	96.0	913	84.2
R5年7月	2,517	96.4	2,134	89.8	1,481	95.9	906	87.4
R5年8月	2,421	98.8	2,039	93.6	1,432	95.9	773	88.3
R5年9月	2,493	97.4	2,065	90.5	1,454	97.3	746	77.5
R5年10月速報値	2,545	96.1	2,078	88.8	1,445	95.0	839	80.6

農水省食肉流通統計
(速報値は農畜産業振興機構が公表する東京市場の平均枝肉価格)